



Title	タイ語における名詞の反復
Author(s)	宮本, マラシー
Citation	外国語教育のフロンティア. 2019, 2, p. 29-51
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/71880">https://doi.org/10.18910/71880</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# タイ語における名詞の反復

## Reduplication of Noun Words in the Thai Language

宮本 マラシー

### Abstract

Reduplication is a type of word formation in the Thai language. It refers to the repetition of a word (noun, verb, adjective, etc.), and is employed to add various meanings to a word, such as intensity, softness, continuation, to indicate reiterative activities, and plurality. A lot of previous works concerning reduplicated Thai words have pointed out that the reduplication of noun words indicates plurality. In fact, the reduplicated word “dèk dèk (children)” indicates the plurality of “dèk (a child)”, but the word “phûu-yâi (an adult)” is never reduplicated in this way.

This paper aims to study the morphological and semantic characteristics of noun words for which reduplication occurs. The results show the structural features of the word reduplicated and the meanings produced by the reduplication as follows:

- 1) The reduplication of noun words most often occurs in monosyllabic words, but seldom occurs in polysyllabic or compound words.
- 2) The reduplication of monosyllabic noun words indicates various meanings, such as unspecified large numbers, idiomatic meanings, etc. as well as plurality, but the reduplication of polysyllabic words or compound words does not indicate unspecified large numbers or plurality.

キーワード：反復語、名詞の反復、反復語の意味

Keywords: Reduplicated words, Reduplication of noun words, Meaning of reduplicated words

### 1. はじめに

#### 1.1 問題の所在及び先行研究

タイ語においては、反復は造語法の一つである。日常生活でタイ人はしばしば「kham sám (反復語)」を用いている。「kham sám (反復語)」は単純語の繰り返しで作られる複合語の一種である。単純語全体を繰り返して作られる反復語もあれば、その一部（頭子音、母音等）を繰り返して作られる反復語もある。そして、それらの反復語は名詞、動詞、修飾詞、接続詞など殆どの品詞において見られる。単純語が繰り返されると、そこに様々な意味的な変化が生じることが多い。意味の強化もあれば、意味の弱化、動作の継続及び反復、そして複数等が表される。過去に、それらの反復語について論じられている記述は少ながら

ずある。たとえば、Bruminhen (1966)、Bandhumedha (1970)、Prasithrathsint, Hoonchamlong, and Savetamalaya (2001)、三上 (2002)、Anchaleenukoon (2003)、宮本 (2003)、Iwasaki & Ingkaphirom (2005)、そして Chuartchinnapa & Pakasuk (2006)、など。

Bruminhen (1966) は、タイ語の反復語について、繰り返すことが出来る語と、繰り返すことが出来ない語がある。繰り返すことが出来る語の場合は、単語が繰り返されることで元の単語にどのような意味的な変化が見られるのかについて論じている。名詞は繰り返されると、複数を表すものもあれば、元の単純語の意味と変わらないものや特別な意味をもつようになるものもあると指摘している。たとえば、「dèk dèk làp léeo (子供たちはもう寝ている)」における「dèk dèk (子供たち)」は複数の子供を表す。「khon yàan rao rao kháo khoj mài khóp (我々のような人間とは彼は付き合ってくれないでしよう)」における「rao rao (我々)」は「rao (我々)」と意味が変わらない。そして、「kháo pen yâat yâat kàp rao (彼は私の遠い親戚です)」における「yâat yâat」は単純語「yâat (親戚)」と違い、「遠い親戚」のように特別な意味を持つようになる (Bruminhen 1966:43-44)。

Bandhumedha (1970) は、タイ語では、繰り返すことができる語もあれば、繰り返すことができない語もある。また名詞が繰り返されれば複数の意味が表され、動詞が繰り返されれば動作の継続、数量詞が繰り返されれば数が多いことを表す、などのように殆どの品詞において繰り返すことができる語があると記述している (Bandhumedha 1970:65-70)。

Prasithrathsint, Hoonchamlong, and Savetamalaya (2001) は様々な言語の反復語について論じている。タイ語については、例を取り上げ、元の単純語から変化した反復語の意味について述べている。たとえば、dam (黒い) → dam dam (黒っぽい)、dèk (子供) → dèk dèk (複数の子供) (Prasithrathsint、他 2001:75-76)。

三上 (2002) はタイの反復語を1) 音節の全体的反復、と2) 音節の部分的反復、の2種類に大別している。音節の全体的反復には、複数、動作の継続・反復、意味の強化・弱化、といった様々な意味が表されると指摘している。名詞の反復語は複数の意味を持つが、どの名詞でも繰り返すことが出来るというわけではないことも記している (三上 2002:54-55)。

Anchaleenukoon (2003) は、様々な品詞において作られるタイ語の反復語の種類やそれらの反復語の意味について論じている。名詞の反復語の意味については「複数の意味が表される反復語は親族名称の反復語に多く見られる。たとえば、「lûuk lûuk (子供たち)」、「phîi phîi (兄／姉たち)」、など。これらの反復語の原形である単純語は单数の意味として用いられる場合もあれば、複数の意味で用いられる場合もあるが、反復されると複数の意味しか持たなくなる。また「rót (車)」や「kêeo (グラス)」などの一般的な名詞にはその反復語は見られない」と指摘している (Anchaleenukoon 2003:29)。

宮本 (2003) は名詞の反復語は複数的、または全般的な意味を持つと指摘している。た

とえば、「phâan phâan phöm thûk khon mây sùup burii（私の友達は皆煙草を吸わない）」における「phâan phâan」は特定の友人の誰かを指すのではなく、複数の友人全般に言及することを表すと記述している（宮本2003:284）。

Iwasaki&Ingkaphirom (2005) は、タイ語の反復を、1) 単純反復 (Simple reduplication)、2) 複合反復 (Complex reduplication)、そして3) 意味的反復 (Semantic reduplication)、の3つに類別している。単純反復である名詞の反復について論じる際、「名詞、あるいは類別詞 (classifiers) の単純反復は複数を表すが、この意味を表すために反復される名詞は限られる」と指摘している (Iwasaki&Ingkaphirom 2005:34)。

Chuartchinnapa & Paksasuk (2006) は、英語から借用された語は繰り返して用いられる、元の英語から変化した語構成、意味、機能を持つことについて記述している。英語からの借用語の反復語全体を論じているが、名詞の反復語には焦点を当てていない。

Chuartchinnapa & Paksasuk (2006) 以外の上記の先行研究が指摘している、名詞の反復語の意味的特徴及び反復が行われる状況を〔表1〕にまとめる。

〔表1〕 先行研究が指摘している名詞の反復語の意味的特徴及び反復が行われる状況

先行研究	意味				反復が行われる状況
	複数	意味の不変化	特別な意味	全般	
Bruminhen	○	○	○		
Bandhumedha	○				
Prasithrathsint、他	○				
三上	○				○
Anchaleenukoon	○				○
宮本	○			○	
Iwasaki&Ingkaphirom	○				○

〔表1〕の通り、名詞の反復語は複数の意味が表されることの指摘は全ての研究に共通している。複数以外の意味もあると指摘したのは、Bruminhen (1966) と宮本 (2003) の記述にしか見られない。また、三上 (2002)、Anchaleenukoon (2003)、そして Iwasaki&Ingkaphirom (2005) は、繰り返されることで複数の意味が表される名詞は全ての名詞ではないことも指摘しているが、どのような名詞が繰り返されることで複数の意味が表されるのかについては明記していない。他の先行研究においても、名詞の反復語が複数の意味以外にどのような意味を表すのか、ということには殆ど注目されておらず、また、複数の意味がどのような名詞の反復に見られるのかなどの不明な点が残されている。実際、日本人タイ語学習者の間でよく見られる誤解に、すべての名詞は反復されることで複数の意味を表す、というものがある。たとえば、「phai thammachâat lào nîi tham hâi bâan-ruan phaj thalaai lé? chiiwít khon khon wûnwaai pànpùan（これらの災害で多くの家が壊れ、人々の生活は混乱した）の

「khon khon (人々)」、や「ráyá? níi nǚu thoo pai hǎa phûuyài phûuyài thûk wan (最近私は毎日大人たちに電話をかけています) の「phûuyài phûuyài (大人たち)」のような不自然な名詞の反復である。このことからも、名詞の反復語の使われ方やその意味についての研究がまだ十分にはなされていないことが分かる。

## 1.2 研究目的及び研究資料

日本人学習者にタイ語の名詞の反復語とその意味への理解を深めてもらうために、1) 繰り返しはどのような名詞で行われるのか、2) それらの名詞が繰り返されるとどのような意味が表されるのか、といった上述の先行研究に残された不明な点を明らかにすることが本稿の目的である。

研究の対象として用いている名詞の反復語は、日常生活でタイ人が交わしている会話、インターネット上、ドラマ『Doksom Seethong』(2011放送)<sup>1)</sup>のセリフ、小説『Bupphesanniwaat』(2015)<sup>2)</sup>から収集したものもあれば、タイ語母語話者コンサルタント(以降:コンサルタント)<sup>3)</sup>に作成してもらったものもある。インターネット上、ドラマ、そして小説から引用したものはその出典をそれぞれの後部に記す。出典が記されていないものは、日常生活でタイ人が交わしている会話、またはコンサルタントに作成してもらったものである。

なお、本稿で研究の対象として用いる名詞の反復語は、単純語の全体を繰り返して作られる反復語のことであり、「dèk lék」、「nóɔŋ nûŋ」、「dék dèk」などの単純語の一部(頭子音、母音等)を繰り返して作られる名詞の反復語は対象外である。

## 1.3 名詞の定義

『広辞苑』によると、「名詞」とは「(noun) 品詞の一つ。事物を表す語。文中で主語や目的語等として働く。数詞・代名詞を含むこともある」と定義されている(岩波書店2008)。本稿はその『広辞苑』の定義を参考にし、名詞とは、「事物を表す語であり、文中で主語や目的語等として働く。数詞・代名詞も含まれることとする。一方、タイ語は類別詞言語(classifier language)の一つである。類別詞は、名詞が表す事物をその形状、機能、単位によって分類する語である。類別詞の多くは名詞から来ている。たとえば、「dèk sɔŋ khon (子供二人)」や「náam-chaa sääam khùat (お茶3本)」に見られる「khon (~人)」や「khùat (~本)」は名詞「khon (人、人間)」や「khùat (瓶)」から来たと思われる。そして、類別詞は代名詞として使用されることもある。たとえば、買ってきたお茶について話す場合、「khùat níi 100 yeen, tèe khùat nán 150 yeen (このお茶は100円ですが、そのお茶は150円です)」のように、類別詞「khùat (瓶)」はお茶の代名詞として用いられる。よって、本稿では、その多くが名詞から来たものであり、また代名詞として用いられることがある類別詞も名詞の一つとして扱う。

## 2. タイ語における名詞の反復語

対象とされている研究資料に見られるタイ語の名詞の反復語は、名詞の類型によって14のタイプに分類できる。それは、1) 親族名称、2) 年齢層名称、3) 友人関係を表す語、4) ジェンダーを表す語、5) 人称代名詞、6) 疑問代名詞、7) 時名詞（時間・時間帯を表す語）、8) 類別詞、9) 数量詞、10) 外国から来た借用語である名詞、11) 国名・人種名、12) 動物とその身体部位の名称、13) 植物に関する語、そして14) その他（タイプを特定することが困難である語）、である。本章では、それぞれのタイプの名詞についてどのような名詞において繰り返しが行われるのか、また、それらの名詞が繰り返されるとどのような意味の変化が生じるのかについて、2.1～2.14で記述していく。

## 2.1 親族名称の反復語

## 2.1.1 親族関係にある人々を表す親族名称

まず、親族名称の用い方とその意味、そしてその語が繰り返されることによって生み出される意味を例 (1) ~ (3) で説明する。

(1) phii khao rap ratchakaan.  
彼女のお兄さん／お姉さんは公務員です。

(2) phii khao rap ratchakaan thuk khon.  
彼女のお兄さん達／お姉さん達／お兄さんとお姉さん達は皆公務員です。

(3) phii phii khao rap ratchakaan (thuk khon).

彼女のお兄さん達／お姉さん達／お兄さんとお姉さん達は（皆）公務員です。

(1) の「phii (兄／姉)」は、普通、彼女の兄または姉の一人を示す。しかし、(2) の「phii (兄／姉)」は副詞「thuk khon (皆)」を伴うと、彼女の兄または姉のどちらかが二人以上、あるいは兄と姉の両方を示す。一方、(3) の「phii phii (兄達または姉達、あるいは兄姉達)」は副詞「thuk khon (皆)」を伴わなくとも、彼女の兄または姉のどちらかが二人以上、あるいは兄と姉の両方を示す。つまり、単純語「phii」は単数または複数の「上の兄弟」を示すが、「phii phii」と繰り返されると、複数の意味しか持たなくなる。このように繰り返されると複数の意味しか持たなくなる親族名称には、「phii」以外に、「nóoj (弟／妹)」、「lúuk (子供)」、「lán (甥／姪／孫)」、「luj (伯父)」、「pâa (伯母)」、「náa (叔父／叔母)」、「?aa (叔父／叔母)」、「lén (曾孫)」、「yáat (親戚)」もある。なお、「yáat (親戚)」は、「pen yáat yáat káp(kan)」という形で用いられると、複数ではなく「遠い親戚である」という意味で用いられる。

一方、一般的にはそれぞれ単数である「púu (<父方の>祖父)」、「yáa (<父方の>祖母)」、「taa (<母方の>祖父)」、「yaai (<母方の>祖母)」、「phú (父)」、「m   (母)」の反復を、普段、見聞きすることはないが、例(4)で提示する「phú phú m   m   (お父さん達お母さん達)」のような繰り返しが例外的に見られる。

\* (4) ?òp?ùn phr  m n  , ph   ph   m   m   phaa n  oj Achi th  o y  ip  n

お父さん達、お母さん達が揃って、アチくんを連れて日本へ旅行に行くほど暖かい  
(家族関係が築かれている)。

[<https://www.thairath.co.th>]

(4) にある「ph   ph   m   m   (お父さん達、お母さん達)」というのは、アチという男の子が日本への旅行に、自分の離婚した両親だけではなく、両親それぞれの再婚相手も同行しているという背景の上の文である。そのような特別な事情であれば、それぞれの複数の親族を表すために、それらの親族名称が反復されることがある。

同様に、夫と妻を表す口語の「ph   (夫)」、「mia (妻)」は、普通は繰り返して用いられることはないが、再婚の経験がある男女や複数の女性と夫婦関係を持っている男性が、それぞれの相手について言及するなどの、特別な事情の場合においては反復されることもある。ただし、文語の「s  amii (夫)」と「phanrayaa (妻)」は、どのような場合でも、反復されることは見られない。そして、従兄妹、婿、嫁を表す語も繰り返されるのが見られない。繰り返しが行われないこれらの親族名称は、「lúuk phii lúuk n  oj (従兄妹)」のように、複合語であったり、また「s  amii (夫)」のように単純語であっても、その構成は、単音節

語ではなく、多音節語であるところが共通している。

上記の通り、親族名称が繰り返されると複数の意味が表されるが、すべての親族名称に繰り返しが見られる訳ではない。普通は繰り返しが見られないが、特別な事情で言及される場合のみ繰り返されることがある親族名称もあれば、どんな場合においても繰り返しが見られない親族名称もある。前者は祖父、祖母、父、母のように一人しかいないことを前提とする親族を表す語、後者はその親族を表す語の構成が複合語であるか、単純語であっても多音節である親族名称である。

## 2.1.2 非親族関係の人に対しても用いられる親族名称

非親族関係の人に対しても用いられる親族名称には、「taa（<母方の>祖父）」、「yaai（<母方の>祖母）」、「phɔ̄（父）」、「mēe（母）」、「phii（兄／姉）」、「nōoŋ（弟／妹）」、「lūuk（子供）」、「lǎan（甥／姪／孫）」、「luj（伯父）」、「pāa（伯母）」、「náa（叔父／叔母）」、「?aa（叔父／叔母）」がある。自分より少し若い人のことを「nōoŋ（弟／妹）」、少し上の人のことを「phii（兄／姉）」などのように、普通、話し手は自分と言及する人との相対年齢を基準にし、非親族の人に対しても、上記の親族名称を用いている。これらの親族名称は繰り返されると、例(5)～(7)に見られるように複数や多数を表す。

(5) phâap nówñ nówñ thiim fútboon Müu Pàa, khóot, phii phii nùai Seal.

サッカーチーム「イノシシ」のお弟さん達、コーチ、海軍特部隊のお兄さん達の映像です。

[www.youtube.com/thaitv6HD]

(6) phii phii nóŋ nóŋ luŋ luŋ pâa pâa náa náa ?aa ?aa lán lán khá, weelaa bùa bùa tèe yàak thàai rûup nîa, ?òk pai thàai thii nái kan røø.

お兄さん達／お姉さん達、お弟さん達／妹さん達、伯父さん達、伯母さん達、叔父さん達、叔母さん達、孫さん達／甥さん達／姪さん達、退屈して写真を撮りたくなった時は、どこに出かけて写真を取りますか。

〔<https://pantip.com>〕

(7) khɔ̄o kham-né?nam phɔ̄o phɔ̄o mēe mēe thíi lûuk phéé nom wua nɔ̄i.

牛乳アレルギーの子供がいるお父さん達お母さん達からのご助言をいただきたい  
と思います。

〔<https://www.hifamilyclub.com>〕

(5) と (6) は話し手と言及されている人々との相対年齢を感じさせる表現であるが、(5) は特定の集団の中の多数の人々を示しているのに対し、(6) は不特定多数の人々への呼び

かけである。一方、(7) の「phoo phoo mee mee」は話し手と言及している人との相対年齢でなく、自分と同じようにまだ小さい子供を持っている一般の父、母の立場にいる人々のことに言及していることが分かる。(5)～(7) に見られるように、非親族関係にある人のことを親族名称の反復語で表すと、ある特定の集団の中の複数、多数または不特定多数を指すことになる。

2.1.1と2.1.2での記述の通り、親族名称の中には、その反復が一般的に見られる語もあれば、特別な事情がある場合に限り反復が見られる語、そして、反復が全く見られない語もある。反復が見られる語は複数や多数の意味が表されるが、非親族関係の人のことを示す場合は、不特定多数の意味が表されることもある。反復が見られない語は複合語、または単純語ではあるが多音節語であることが分かった。

## 2.2 年齡層名稱

タイ語の様々な年齢層にある人を示す語として用いられる「thaarók（乳児）」、「dèk（子供／少年／少女）」、「wai rûn（ティーンエイジャー）」、「nùm（青年＜男性＞）」、「săao（青年＜女性＞）」、「phûu-yài（大人）」は、本来「wai thaarók（乳児期）」、「wai dèk（幼少期）」、「wai rûn（ティーンエイジ）」<sup>10)</sup>、「wai nùm（青年期＜男性＞）」、「wai săao（青年期＜女性＞）」、「wai phûu-yài（成人以降の年齢層）」という年齢層名称から来たと思われる。これらの言葉の中では「dèk（子供）」、「nùm（若い＜男性＞）」、「săao（若い＜女性＞）」、「phûu-yài（大人）」に、例（8）～（16）で提示するような反復が見られる。なお、年齢層名称には他にも、「wai klaaŋ-khon（中年）」と「wai charaa（老年期）」もあるが、それぞれに反復が見られないだけでなく、「klaaŋ-khon（中年の）」と「charaa（老る）」も名詞としては用いられない。

(8) nîi dék dék, rao maa rabaai sîi phrá?-?aathít kan, phrá?-?aathít sîi ?arai khráp  
子供達、太陽の絵に色を塗りましょう。太陽は何色でしょう。

[Doksomseetong]

(9) ŋooŋ pen dèk dèk ləəi ná kəə.  
子供みたいに拗ねているね。

[Buppheesanniaat]

(10) thâa kháo yaŋ māi khøei kàp khrai, kháo kô̄tø̄ rawaŋ tua sùt sùt. māi châi dèk dèk léo ná.  
彼女は経験がなければ、きっとすごく気を付けたはずだ。もう子供（世間知らず）  
ではないから。

[Doksomseetong]

(11) *toɔn dèk dèk fáa tua dam rĕə mĕe.*

子供の時、私の肌は黒かったの、お母さん！

[Doksomseetong]

(12) thammai nùm nùm samāi níi níyom sǎao ?aayú mâak kwàa.

なぜ最近の若い男性達は年上の女性が好きなのでしょうか。

[<https://www.facebook.com>]

(13) tɔɔn nùm nùm phon ?èek prayút kɔ̄lɔ̄ mǎankan ná khráp.

若い時、プラユット大将も結構男前でしたよ。

[<https://pantip.com>]

(14) phɔɔ nájšuu ?ɔɔk kɔ̄mii sǎao sǎao maa ciip.kháo khít wâa rao pen thoɔm.

本が出版されると、たくさんの若い女性に口説かれた。彼女達は私が同性愛者だと思っていた。

[Buppheesanniwaat]

(15) mɔɔŋ khâaŋ-lăŋ nûk wâa sǎao sǎao thîinäi.lûuk too pen nùm lêeo,hùn yan pé? yùu lœi.

後ろから見ると、どこかの若い女性だと思ったわ。大きな息子さんがいるのに、まだ抜群のスタイルね。

[Doksomseetong]

(16) phûu-yiŋ khon nán nâ, khon thîi sài sîa sîi fâa thâathaŋ phûu-yai phûu-yai nòi pen khruu khɔɔŋ chán.

その女性、青い服を着ていて、（年齢よりも）落ち着いてみえる人が私の先生です。

(8) の「dèk dèk（子供達）」、(12) の「nùm nùm（若い男性たち）」、(14) の「sǎao sǎao（たくさんの若い女性）」は複数、または多数の意味が表されている。単純語「dèk（子供）」、「nùm（若い男性）」、「sǎao（若い女性）」はもともと単数も複数も表すが、反復されると複数の意味しか持たなくなる。それに対し、(9) の「pen dèk dèk（子供みたいに／子供のように）」、(10) の「dèk dèk（子供=世間知らず）」、(11) の「tɔɔn dèk dèk（子供の時）」、(13) の「tɔɔn nùm nùm（男性の若い時）」は複数や多数の意味を表しているのではない。(9) では、「dèk dèk」は「pen（なる／～である）」と共に比喩的な意味合で形容詞的に用いられている。「pen dèk dèk」の代わりに、反復なしの「pen dèk」としても意味は変わらない。(10) の「dèk dèk（子供=世間を知らず）」は慣用的な意味で用いられている。この「dèk dèk」の代わりに単純語「dèk」を用いても意味は変わらない。(11) の「tɔɔn dèk dèk（子供の時）」、や(13) の「tɔɔn nùm nùm（男性の若い時）」は、「tɔɔn（～の時）」との共起なしの「dèk dèk（子供の時）」、や「nùm nùm（男性の若い時）」、または、反復なしの「tɔɔn dèk（子供の時）」や「tɔɔn nùm（男性の若い時）」にしても同じ意味になり、副詞的に用いられる。そして、(15) の「sǎao sǎao thîi năi（どこかの若い女性）」は一人の女性のことに言及

しているので、ここも「sǎao thīi nǎi (どこかの若い女性)」のように、「sǎao (若い女性)」の繰り返しがなくても意味は変わらない。また、(16) の「phûu-yai phûu-yài」は「年齢よりも落ち着いている様子」を示す。このように、「phûu-yai phûu-yài」は「大人」の複数ではなく、「大人らしく」、「大人びた」、「落ち着きのある」などの慣用的な意味合いを持ち、他の名詞を修飾するために用いられる。

一方、「thaarók (赤ん坊)」と「wai rûn (ティーンエイジャー)」には繰り返して用いられることは見られない。「wai rûn (年代+時代/期=ティーンエイジャー)」は複合語であり、また「thaarók (赤ん坊)」は単純語であっても多音節語であるところが、単音節の単純語である「dèk (子供/少年/少女)」、「nùm (青年<男性>)」、「sǎao (青年<女性>)」と相違する。

上述の通り、年齢層の名称「dèk (子供)」、「sǎao (若い女性)」、「nùm (若い男性)」は繰り返されると、複数や多数または不特定多数を表すこともあるが、「～の時」または比喩的や慣用的な意味を持つようになることもあるが、元の単純語の意味に何ら変化を生じないこともある。それらの反復語は名詞として用いられる場合もあれば、形容詞や副詞として用いられる場合もある。また、繰り返しが見られる語は「phûu-yài (大人)」以外、基本的に一音節の単純語であることも分かった。

### 2.3 友人関係を表す語

タイ語の友人関係を表す語には、「phâan (友人/メート)」、「mít (友人)」、「klǣ (親友)」、「sahăai (同甘共苦の友)」がある。その中で、反復が見られるのは「phâan (友人/メート)」という言葉しかない。「phâan (友人/メート)」は、一人の友人を示す場合にも用いられるし、複数の友人を示す場合にも用いられる。しかし、「phâan」を「phâan phâan」にすると、複数の友人を表す場合にしか用いられない。(17) と (18) の「phâan phâan」はある集団の中の仲間達、あるいは特定の人物の友人達のことを示しているが、(19) と (20) の「phâan phâan」は個人的な繋がりのない一般の人々を示している。

(17) phâan phâan thiim Mǚu-Pàa wîŋ hai kamlaj-cai phâan phâan thîi tît thâm.

「イノシシ」のチームメート達は洞窟に閉じ込められているチームメート達を激励するために走る。

[<https://www.matichon.co.th>]

(18) phâan phâan phōm thûk khon mâi sùup burìi.

私の友人達は皆タバコを吸わない。

[宮本2003:280]

(19) sámrap̄ phâan phâan thîi phóp panhăa kiaokàp keem.....

ゲームについての問題がある友人達（皆さん）にとっては、。

[<https://th-th.facebook.com/>]

(20) phûan phûan khœøi pai súu khœøj nai hâap léøo phanákøaan kuan tiin mái khráp. phûan phûan tham ñai kan.

友人達（皆さん）はデパートでお買い物をしたとき、接客に問題のある店員に会ったことがありますか。そのとき、友人達（皆さん）はどうしましたか。

[<https://pantip.com>]

上記の通り、「phûan phûan」は、ある特定の人物の複数、あるいは多数の友人、またはある特定の集団の中の多数の仲間達を表すだけではなく、面識はないが、趣味、体験等が共通している一般の不特定多数の人を示す反復語としても用いられる。「phûan（友人／メート）」は単数の友人を表す場合にも、複数の友人を表す場合にも用いられるが、個人的な繋がりがない不特定多数の人を示す場合、反復語である「phûan phûan」しか用いられない。

## 2.4 ジェンダーを表す語

タイ語には、「phûu-chaai（人+男=男性）」、「phûu-yïŋ（人+女=女性）」以外に、同性愛者を表す語も多くある。その中で、繰り返しが行われるのは、例(21)～(23)に見られる「phûu-chaai（男性）」、「phûu-yïŋ（女性）」、そして「kathœøi（男性同性愛者）」である。

(21) lûuk-sâao châøp tèøtua bëep phûu-chaai phûu-chaai.

娘は男っぽい服装を着るのが好きです。

(22) yâak dâi sîi phûu-yïŋ phûu-yïŋ nòøi.

ちょっと女っぽい色が欲しいです。

(23) [電話] faø sîaø duu, sîaø kathœøi kathœøi.

(電話での) 声を聞いてみると、同性愛者っぽい声をしている。

(21) の「bëep phûu-chaai phûu-chaai」にある「phûu-chaai phûu-chaai」は「bëep（服装のスタイル）」を修飾して、一般の男性がよく着る服装のことを示す。一方、(22) の「sîi phûu-yïŋ phûu-yïŋ」にある「phûu-yïŋ phûu-yïŋ」は「sîi（色）」を修飾し、爽やかでやわらかいイメージを与える色のことを示す。「sîaø kathœøi kathœøi」にある「kathœøi kathœøi」は「sîaø（声）」を修飾し、聞く人に男性同性愛者であるような印象を与える声や話し方を表す。

上記の通り、ジェンダーを表す語が繰り返されると、「～っぽい」、「～みたい」、「～らしい」というように、ある社会における一般的に認識されているそれぞれの性の性質や言動

の特徴を帶びているという意味が生み出され、他の名詞を修飾して形容詞的に用いられる。

## 2.5 人称代名詞

タイ語の人称代名詞には、「chán (私)」、「phǒm (僕)」、「khun (あなた)」、「kháo (彼、彼女)」、「rao (私、私達)」、「thân (あなた様)」、など多くあるが、反復が見られるのは、「khun (あなた)」、「rao (私、私達)」、「thân (あなた様)」の3つしかない。例(24)と(25)を見てみよう。

(24) khon yàaj rao rao kháo khoj māi sǒn róok.

我々のような人間は、彼は関心がないでしょう。

(25) rao rao thân thân säämāat dâi khóo-khít ?arai càak khàao yài thii Thâm-lúaŋ.

私達とあなた様方(我々)は、タム・ルーアン事件のニュースから何か学ぶことが出来ますか。

[perceptiablog.wordpress.com]

(26) sèetthakìt thai kamlaŋ thayaan, khun khun thân thân châa kan mái.

タイの経済が急成長していることを、あなた方、あなた様方(皆様)は信じておられますか。

[<https://www.dailynews.co.th>]

(24)では、「rao rao (我々)」とは、話し手と聞き手のことを表す。(25)の、「rao rao (私達、我々)」と「thân thân (あなた様方)」の反復語の共起は、「我々」という意味になり、話し手を含む一般の人々のことを表す。一方、(26)での、「khun khun (あなた方)」と「thân thân (あなた様方)」の反復語の共起は、不特定多数の聞き手(読者)を示す。

人称代名詞の反復は上述の通り、複数、多数、または不特定多数を表す。

## 2.6 疑問代名詞

タイ語では、疑問代名詞の反復は「khrai (誰)」、「?arai (何)」、「thîinăi (どこ)」、「mâarai (いつ)」に見られる。「khrai (誰)」→「khrai khrai kɔ̄ (誰でも/誰にも)」、「?arai (何)」→「?arai ?arai kɔ̄ (何でも/何にも)」、「thîinăi (どこ)」→「thîinăi thîinăi kɔ̄ (どこでも/どこにも)」、「mâarai (いつ)」→「mâarai mâarai kɔ̄ (いつでも/いつも)」となるように、それぞれの反復語に「kɔ̄」が後続する。例(27)を見てみよう。

(27) khrai khrai kɔ̄ māi yàak cəə, ?arai ?arai kɔ̄ māi yàak tham, thîinăi thîinăi kɔ̄ māi yàak pai, ?aakaan yàaj níi pen ?aakaan khóoŋ róok sumsâo rúu plàao.

誰にも会いたくないし、何もやりたくない、そしてどこにも行きたくない、このような症状はうつ病の症状ですか。

疑問代名詞は繰り返されると、上記の通り、不特定多数の意味を持つようになる。

## 2.7 時名詞（時間・時間帯を表す語）

タイ語の時間を表すのに、「wan（日）」、「?aathít／sàpdaa（週）」、「duan（月）」、「pii（年）」、「chûamoong（時間）」、「naathii（分）」、「wínathii（秒）」という語がある。そして、時間帯を表すのに、「klaaj wan（昼間）」、「klaaj khuun（夜）」、「cháo（朝）」、「sääi（朝遅い時間帯）」、「bàai（午後）」、「yen（夕方）」、「khâm（宵）」、「dùk（夜遅い時間帯）」という語がある。この中で、繰り返しが見られるのは、「wan（日）」、「duan（月）」、「pii（年）」、「cháo（朝）」、「sääi（朝遅い時間帯）」、「bàai（午後）」、「yen（夕方）」、「khâm（宵）」、「dùk（夜遅い時間帯）」である。例を見てみよう。

(28) pàtcuban thamjaan ŋən duan nùŋ mùun hâa phan bàat tèe ruam ruam léeo duan duan nùŋ kɔ̄ dâi kùap kùap sääam mùun.

現在、私は月に15,000バーツの給料をもらっているが、（他の収入を）色々合わせると各月／一月ほぼ30,000バーツもらっている。

[<https://pantip.com>]

(29) chiiwít phöm yùu pai wan wan māi mii pâomäai.

僕には人生の目標がなく、ただその日その日を生きているだけ。

[<https://pantip.com>]

(30) wan wan māi tham ?arai, ?ao tèe kin thâao.

一日中何もしないで、食べて遊ぶだけ。

[<https://www.krungsri.com>]

(31) khuun níi thoо hää phöm mài, khâm khâm ná.

今夜僕にもう一回電話して、宵のうちにね。

[[Doksomseetong](https://Doksomseetong)]

(28) の「duan duan」は一月ごとまたは一カ月という意味で副詞的に用いられている。duan（月）以外にwan（日）、とpii（年）も、「wan wan（一日ごと／一日一日／日一日／その日その日）」、「pii pii（一年ごと／一年）」となり、同じような意味合いを持つ。このような反復語には「nùŋ（一つの）」という語が後続することも多く見られる。(29) の「wan wan」は「その日その日」という意味で用いられており、(30) の「wan wan」は「一日中」

という意味で用いられている。一方、(31) の「の「khâm khâm」は「tɔɔn khâm (時+宵)」と同じように、「宵のうち」という意味で副詞的に用いられるが、「khâm khâm」の方が口語的である。このような反復語の持つ意味と用いられ方は「khâm」以外に、「cháo (朝)」、「sääi (朝遅い時間帯)」、「bääi (午後)」、「yen (夕方)」、「däk (夜遅い時間帯)」の反復語にも一般的に見られる。一方で、「?aathít／sàpdaa (週)」、「chûamooŋ (時間)」、「naathii (分)」、「wínathii (秒)」、「klaaq wan (真ん中+日=昼間)」、「klaaq khuun (真ん中+夜=夜間)」の反復語は見られない。

要するに、時間を表す語の反復語は、「一つの」、「一～ごと」という意味合いを持つ一方、時間帯を表す語の反復語は「～の時」という意味で副詞的に用いられる。いずれも口語的な表現である。また、このタイプの名詞の反復は多音節の単純語または複合語ではなく、单音節の単純語において行われるということも分かった。

## 2.8 類別詞

タイ語の類別詞の反復語は例 (32)～(34) のように、普通「pen (なる／～である)」に後続し、「pen + 類別詞の反復語」という形式で表現される。

(32) thân thîi súu náam dùum pen khùat khùat, thammai thüp mây khít ca tít khrâaj krooj náam wái thîi bâan.

ペットボトルの飲み水を買う人は、なぜ自宅に浄水器を置くことを考えないのでしょうか。

[<https://pantip.com>]

(33) nam ?ao rûaŋraao càak prasòpkaan thîi phûu-khîan phóp hĕn maa thàaithôt nai rûup bëep khöoj náwániyai dooi khîan pen tɔɔn tɔɔn pramaan säämsip-hòk tɔɔn.

作家は自分が経験したことを小説の形にして、36章に分けて、一章ずつ載せた。

[<https://books.google.co.jp>]

(34) feen chöp plɔɔi hái rɔɔ pen chûamooŋ chûamooŋ.

彼女によく何時間も／長く待たされた。

[<https://pantip.com>]

(32) の「pen khùat khùat (一本ずつ／ペットボトルで)」は飲み水の入ったペットボトル「一本ずつ」、という意味と、「ペットボトルで（に入って）」という道具・手段を意味する場合があり、どちらの意味で用いられているかは状況や文脈から判断しないといけない。従って、例文の「súu náam dùum pen khùat khùat」は「飲み水が入っているペットボトルを一本ずつ買う」と言っているのか、「ペットボトルに入れられている飲み水を買う」と言っ

ているのかは、この文だけでは判断できない。(33) の「pen tɔɔn tɔɔn」は小説をいくつかの章に小分けして「一章ずつ」という意味で用いられる。一方、(34) の「pen châamooŋ châamooŋ（何時間も／長く）」は時間が長いことが強調される。「châamooŋ（時間）」以外に、「wan（～日間）」、「duan（～カ月間）」、「pii（～年間）」といった時間の単位、「kiloo（キロ）」といった距離や重さの単位等にもこの形式の反復が多く見られ、「時間が非常に長い」、「距離が非常に遠い」、「重さが非常に重い」、「量が非常に多い」などのような意味合いが表される。

コンサルタントによると、全ての類別詞において、「pen + 類別詞の反復語」という用い方が可能である。その類別詞が表す物の単位で、修飾する事物の「一つずつ」を意味することもあれば、類別詞が表す「道具・手段を持ちいて」を意味することもある。一方、時間、距離及び重量に関する類別詞の場合は、前述の二つの意味だけでなく、その量や程度等を強調するためにも用いられる。

## 2.9 数量詞

数量詞の反復語は類別詞の反復語と同じように、普通「pen（なる／～である）」に後続して用いられる。例(35) にあるように、「pen sìp sìp（何十も）」、「pen rɔɔi rɔɔi（何百も）」、「pen phan phan（何千も）」、「pen mùun mùun（何万も）」、「pen s̄eñ s̄eñ（何十万も）」、「pen láan láan（何百万も）」といったきりのいい数量詞に見られるが、端数の数量詞には見られない。

(35) fân hén ɲuu pen rɔɔi rɔɔi tua.

何百匹の蛇の夢を見た。

[<https://horoscope.mthai.com>]

(35) の「pen rɔɔi rɔɔi tua」は「何百匹」という意味で用いられる。このタイプの反復語は、(35) のように、反復語に「tua（匹）」のような類別詞が後続する場合もあれば、類別詞が後続しない場合もあるが、表される意味は変わらない。

上記の通り、数量詞は繰り返され、「pen（なる／～である）」に後続すると、日本語の「数十（百、千、万）」、などと同じのような意味を持ち、副詞的に用いられ、数や量の多さが強調される。

## 2.10 外国語から来た借用語である名詞

タイは昔から様々な国から来た人々との交流により、様々な国の文化を受け入れてきている。タイ語においても様々な言語から借用された語が多く用いられている。中でも、英

語と中国語(潮州語)<sup>11)</sup>からの借用語には名詞の繰り返しが見られる。英語からの借用語では「feen (fan 恋人、ファン)」、「meen (man 男性)」、「fíptíi (fifty 50)」、「beebíi (baby 赤ん坊)」、「?áat (art 芸術、美術)」、潮州語からの借用語では「tíi (華僑の少年)」、「múai (華僑の少女)」において反復が見られる。これらの借用語が繰り返されると、例(36)～(38)に見られるように、元の英語または潮州語とは違った様々な意味合を持つようになる。

(36) Johnny Depp bùk tham sœóphrái feen feen nai choo khóoj Disneyland.

ジョニーデップはディズニーランドのショーでファン達を驚かせた。

[<https://www.youtube.com>]

(37) phûu-chaai meen meen tóoj duulée phûu-yíŋ thíi ?óon?ee kwàa??.

男らしい男はより弱い女性の世話をしないといけないのか??。

[[https://voicetv.co.th/read/BJF9ZNR\\_M](https://voicetv.co.th/read/BJF9ZNR_M)]

(38) phûu-chaai tíi kháo chóop phûuyíŋ bëep nái.campen tóoj múai múai mái.

中国人っぽい顔をしている男はどのような女性が好きでしょう。中国人っぽい顔を  
している女性でないといけないのかどうか。

[<https://pantip.com>]

(36) の「feen feen」はジョニーデップのファン一人ではなく、多数のファンを示す。(37) の「meen meen」は英語の「man (男)」と違い、「男らしい、男っぽい」という意味で「phûu-chaai (男性)」を修飾している。そして、(38) の「tíi tíi」と「múai múai」は潮州語のtíi (華僑の少年)と「múai (華僑の少女)」と違い、肌が白くて、目が細い中国人っぽい顔をしているという意味で「phûu-chaai (男性)」と「phûu-yíŋ (女性)」を修飾している。他に、英語からの「fíptíi fíptíi (fifty fifty)」、「beebíi beebíi (baby baby)」、「?áat ?áat (art art)」にも同様な用い方が見られる。「fíptíi fíptíi」は「対等、どちらでもない、半々」、「beebíi beebíi」は「大したことがない、とても簡単」、「?áat ?áat」は「芸術的、美術的」という意味で、どれも元の英語「fifty (50)」、「baby (赤ん坊)」、「art (芸術、美術)」から拡張された意味合いを持ち他の名詞を修飾する形容詞的に用いられる。

外国から借用された名詞の反復語は、上記の通り、複数や多数の意味を表す名詞として用いられるものもあるが、それよりも、様々な慣用的な意味合で形容詞的、副詞的に用いられるものの方が多く見られる。

## 2.11 国名・人種名

国名・人種名の反復語には例(39)と(40)のような用い方が見られる。

(39) maarayāat bēep thai thai nāarák kwàa.

タイらしい行儀作法の方がよりチャーミングです。

[Doksomseetong]

(40) tèεŋ nāa hāi sǔai khom khēm sataai khèek khèek.

インド人の顔みたいに目鼻立ちが美しくなるように化粧する。

[www.thainarak.net/beautytips675-40-indian-brides.html]

(39) の「thai thai」は「thai (タイ国)」の繰り返しであり、「タイっぽい、タイらしい」という意味合いで形容詞的に用いられている。(40) の「khèek khèek」は「khèek (インド人)」の繰り返しであり、「インド人っぽい、インド人らしい、インド人みたい」という意味合いで形容詞的に用いられている。「thai (タイ国)」や「khèek (インド人)」以外にも、同様に「yǐpùn (日本)」、「kaolíi (韓国)」、「ciin (中国人)」、「faràŋ (白人)」等が繰り返されて「yǐpùn yǐpùn」、「kaolíi kaolíi」、「ciin ciin」、「faràŋ faràŋ」になる反復語も見られ、どれも、「～らしい」、「～っぽい」のような、語が示す国や人々が持っている典型的な特徴が見られるということを含意する。

## 2.12 動物名・動物の身体部位名

動物名の反復は、「khwaai (水牛)」、「h̄ia (トカゲ)」、「m̄a (犬)」、「m̄uu (豚)」、「ŋuu (蛇)」、「pl̄aa (魚)」、「pl̄uak (シロアリ)」という語に見られる。一方、動物の身体部位の反復は、「n̄úa (肉)」、「man (油、脂肪)」に見られる。それらの反復語は例 (41) ~ (43) のように用いられる。

(41) hèetphǒn khwaai khwaai thîi phûu-chaai chôôp chái weelaa yàak lêæk.

彼女と別れるために男がよく使う愚かな理由。

[www.gangbeauty.com]

(42) súu műu tèe núa núa, māi ?ao man man.

豚肉は、肉の部分が多いところだけを買う、脂の部分が多いところはいらない。

(43) *paɪ kʰjɛ̂n maa m̄ai̯ h̄ai̯ s̄ān, ?ao t̄ɛ̂e n̄uá n̄uá.*

これより短くなるように書き直しなさい。肝心な部分だけを。

られる。また、意味についてはぞれぞれの動物のことではなく、別のことと表すようになる。「hîa (トカゲ)」→「hîa hîa (つまらない、大したことではない、悪い、バカな)」、「măa (犬)」→「măa măa (意味がない、最低、悪い、価値がない)」、「mău (豚)」→「mău mău (簡単な、容易に)」、「ŋuu (蛇)」と「plaa (魚)」→「ŋuu ŋuu plaa plaa (中途半端な、大したことではない)」、「plùak (シロアリ)」→「plùak plùak (つまらない、格好悪い、醜い、くだらない、役に立たない、中身がない)」、といった様々な慣用的な意味合を持つ表現として用いられる。

(42) と (43) は動物の身体部位名の繰り返しが見られる例である。(41) の「núa núa」は、若干脂等が混ざっていても大部分は肉であれば問題がないという意味合いを持つので、脂などが混ざらず肉だけという部分を示す「núa」とは違う。そして、「man man」は脂が多く含まれている部分のことを示すので、脂だけの部分を示す「man」とは違う。しかし、(42) の「núa núa」は(41) の「núa núa」と違い、「肉」から意味がさらに発展して文章の大切な部分、要点という意味合いを持つようになっている。

動物名が繰り返されるのは、上記の通り一部の動物名にしか見られない。それらの動物名は繰り返されると、様々な慣用的な意味合いを持つようになり、また形容詞的に用いられるようになる。そして、動物の身体部位名の反復語は「núa (肉)」、「man (油、脂肪)」にしか見られず、(42) の「núa núa」と「man man」のように意味が拡張される場合もあれば、(43) のように慣用的な意味を持つようになる場合もある。

## 2.13 植物に関する語

植物に関する名詞の反復は、「dòok (花)」、「klûai (バナナ)」、「tòn (幹)」という語に見られる。それらの反復語は例 (44) ~ (46) のように用いられる。

(44) phâa dòok dòok nîi ca ?ao pai tham ?arai r  .

この花柄の生地で何をするの。

(45) r  aj klûai klûai y  aj nîi khrai khrai k  tham d  i.

このような簡単なことは誰でも出来るよ。

(46) Dusit Thani pen roonr  em thii mii praw  t lé ch  u-s  aj rad  p t  n t  n kh  oŋ muaj thai.

デュシタニはタイで有名な、歴史のある、一流ホテルである。

[<https://www.tripadvisor.co.uk>]

(44) の「dòok dòok (花・花)」は、「花柄の」という意味になり、「phâa (生地)」を修飾する。(45) の「klûai klûai (バナナ・バナナ)」は、「簡単な」という意味で、「r  aj (事)」を修飾する。そして、(46) の「t  n t  n (幹・幹)」は「上位の、一流の」という意味で、

「radap（レベル）」を修飾する。

植物に関する語の反復は、上記の通り限られた語にしか見られない。それらの語が繰り返されると、元の単純語の意味から発展し慣用的な意味合いを持つようになり、他の名詞を修飾し形容詞的に用いられる。

## 2.14 その他の名詞

名詞の反復語は2.1～2.13以外に、「bāan（家）」、「cùt（ポイント、ドット）」、「kāak（カス）」、「khōot（祖先）」、「khlāun（波）」、「laai（模様）」、「ŋən（銀）」、「phīi（精霊、お化け）」、「phīu（皮膚）」、「phūun（地面、床）」、「sīi（色）」、「taa（目）」、「thaaj（道）」、「thōoj（金）」、「thēep（神）」、という語にも見られる。「bāan（家）」→「bāan bāan（洗練されていない、田舎っぽい、庶民的、豪華ではない、素朴な）」、「cùt（ポイント、ドット）」→「cùt cùt（ドットがいっぱい）」、「kāak（カス）」→「kāak kāak（いいところがない、特徴がない）」、「khōot（祖先）」→「khōot khōot（すごく～）」、「khlāun（波）」→「khlāun khlāun（波状の～）」、「laai（模様）」→「laai laai（無地ではなく、模様がたくさんある）」、「ŋən（銀）」と「thōoj（金）」→「ŋən ŋən thōoj thōoj（金銭関係の）」、「phīi（精霊、お化け）」→「phīi phīi（様々な精霊またはお化けについての）」、「phīu（皮膚）」→「phīu phīu（表面の）」、「phūun（地面、床）」→「phūun phūun（無地の、普通の）」、「sīi（色）」→「sīi sīi（いろいろな色の）」、「taa（目）」→「taa taa（格子縞の）」、「thaaj（道）」→「thaaj thaaj（縦縞の）」、「thēep（神）」→「thēep thēep（とても素晴らしい）」。これらの反復語は例(47)と(48)のように用いられる。

(47) naaj pen phūu-yīn bāan bāan mai dāi sūai chāilai kwāa khon ?āan ?āan troj nāi, thammai nāa naaj thāy dāi hūacai nūm nūm pai khrōoj.  
彼女は他の女性よりもきれいということでもなくごく普通の女性ですが、なぜ多くの男性の心を奪ったのでしょうか。

[<https://pantip.com>]

(48) phāt thai pāa ?ēo ?arjī khōot khōot.

エーオ叔母さんのパッタイ（タイ風焼きそば）はめっちゃおいしかった。

[[th-th.facebook.com](https://th-th.facebook.com)]

(47)と(48)で提示した名詞の反復語は名詞としてではなく、形容詞的または副詞的に用いられるようになった。そして、「cùt cùt（ドットがいっぱい）」、「khlāun khlāun（波状の～）」、「laai laai（無地ではなく模様がたくさんある）」、「phīi phīi（様々な精霊またはお化けについての）」、「sīi sīi（いろいろな色の）」のように、複数または多数を表し、単純語が

表す意味が残されているものもあるが、それよりも単純語が表す元の意味から転用され慣用的で抽象的な意味合いを持つようになるものの方が多くある。

### 3. 結論

2.1～2.14で記述したように、様々な形式で用いられるタイ語の名詞の反復語は、複数の意味だけではなく、多種多彩な意味合いが表されることが分かった。ここでは、反復が行われる名詞の構成（単純語なのか複合語なのか、また、単純語なら単音節なのか多音節なのか）及びそれらの名詞の反復によって派生される意味合い（複数等）、そして反復語の機能を〔表2〕にまとめる。

〔表2〕 反復語が行われる名詞の構成及び反復によって派生される意味合いと機能

		親族名称	年齢層名称	友人関係を表す語	ジエンダーを表す語	人称代名詞	疑問代名詞	時名詞	類別詞	数量詞	借用語	国名・人種名	動物とその身体部位名	植物に関する語	その他
構成	単音節	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	多音節				○		○	○			○	○			
	複合語	○		○											
意味	複数・多数	○	○	○		○					○			○	○
	不特定多数	○	○	○		○	○				○				
	各～、一つの、～ごと							○							
	～のとき							○							
	～ずつ								○						
	数～、何～も									○					
	～らしい、～っぽい				○							○			
	慣用的	○	○					○		○	○	○	○	○	○
機能	意味に変化は生じない	○													
	名詞的	○	○	○		○	○			○		○			
	形容詞的	○	○		○					○	○	○	○	○	○
	副詞的		○					○	○	○	○	○	○	○	○

〔表2〕で提示された繰り返しが行われる名詞の構成、繰り返しにより生じる意味と機能を考察すると、タイ語の名詞の反復語には次のような特徴があると考えられる。

第一に、名詞の種類。名詞の反復語は親族名称に多く見られると思われてきたが、実際

には、親族名称だけではなく、年齢層名称、時名詞、類別詞等の多くの種類にも見られる。親族名称を含めて殆どの種類の名詞では、反復が限られた語にしか行われない。それに対して、「pen + 類別詞の反復語」の形で用いられる類別詞には、繰り返しが見られない語はない。従って、名詞の反復語において親族名称の反復語が主流ではないということが明らかになった。

第二に、名詞の構成。名詞の繰り返しは、「phûu-yài（大人）」のような複合語や「kiloo（キロ）」や「yîipùn（日本）」のような多音節である単純語よりも、「lûuk（子供）」のような单音節である単純語の方が圧倒的に多く行われる。特に、「親族名称」、「友人関係を表す語」、「人称代名詞」、「数量詞」、「動物と身体部位名」、「植物に関する語」、そして、「その他」の中の名詞では、複合語と多音節の単純語の繰り返しは全く見られなかった。よって、名詞の繰り返しは主に单音節の単純語で行われると言える。

第三に、名詞の反復語の意味。これまでに名詞の反復語は複数の意味を表すと指摘している記述が多かったが、本稿では、複数の意味だけではなく、不特定多数、「各～」、「～ずつ」、「～っぽい」、また慣用的な意味合い等も見られるように、名詞が繰り返されると多種多彩な意味合いが生み出されるということが明らかになった。生み出される様々な意味合いの中では、複数や多数の意味合いと、慣用的意味合いが、他の意味合いよりも多く見られることも明らかになった。そして、複数、多数の意味合いは单音節の単純語の反復語にしか見られないのに対し、慣用的な意味合いは单音節の単純語だけではなく、多音節の単純語と複合語の繰り返しにも見られる。言い換えれば、多音節の単純語と複合語の繰り返しには、慣用的な意味は表されても、複数、多数の意味が表されることはない、ということである。

第四に、名詞の転成（品詞転換）。名詞は反復が行われても名詞のままで用いられる語もあれば、反復が行われると名詞として用いられなくなる語もある。前者は、「phûan（友人）」→「phûan phûan（友人たち）」のような複数や多数の意味を持つようになる反復に見られる。後者は、「bâan（家）」→「bâan bâan（ごく普通の）」、「khôot（先祖）」→「khôot khôot（すごく）」となるように、抽象的な概念を持つようになり、具体的な名詞を修飾する形容詞的、または具体的な行動や状態を表す語を修飾する副詞的に用いられるようになる語に見られる。要するに、名詞に反復が行われても名詞的な機能が存続する語もあれば、反復が行われると名詞の機能が失われ、形容詞、または副詞への転成（品詞転換）が生じることも多くあるということも明らかになった。

#### 4. 今後の課題

名詞の反復はタイ語における造語法の一つであるが、すべての名詞が反復出来るということではない。反復が見られる名詞もあれば、そうでない名詞もある。そして、反復され

る名詞は、そのことで様々な意味合いを生み出す。反復された名詞は複数を表すと思われてきたが、本稿では、必ずしも複数の意味を表すとは限らない、ということを確認することが出来た。また、反復語の中には、「nùm samāi níi (最近の若い男性達)」と「nùm nùm samāi níi (最近の若い男性達)」は同じことを意味する、というように元の単純語が表す意味が反復後も変わらないものも含まれている。元の単純語が表す意味とは変わらないにも拘らず、なぜ繰り返しが用いられているのか、というのは興味深いところである。更に、名詞の類型の特定が困難なものや外国からの借用語等には、今後、反復が行われる語も増えていくものと予想できる。これらのことも引き続き研究していきたいと考える。

## 注

- 1) Thaithow Sucharitkul 『Doksom Seethong』、Sallaya (脚本)、2011年タイのチャネル3で放送されたドラマ。
- 2) Romphaeng 『Bupphesanniwaat』、2015、Happy Banana、Bangkok.
- 3) タイ語母語話者コンサルタントは共通タイ語をしゃべっている20代～50代の男女6名である。内訳：20代の女性2名、20代の男性1名、30代の男性1名、50代の女性2名。
- 4) 「phii (兄／姉)」、「nóɔŋ (弟／妹)」、「lúuk (子供)」、「lǎan (甥／姪／孫)」の性別を明確に示すときには、それぞれの語に「chaai (男性)」または「sáao (女性)」を後続する。たとえば、「phii-chaai (兄)」、「nóɔŋ- sáao (妹)」、など。
- 5) 「luŋ」は「伯父」という意味で、両親の兄を示す。
- 6) 「pâa」は「伯母」という意味で、両親の姉を示す。
- 7) 「náa」は「叔父」、「叔母」という意味で、性別に関係なく、母親の弟・妹を示す。
- 8) 「?aa」は「叔父」、「叔母」という意味で、性別に関係なく、父親の弟・妹を示す。
- 9) 「phúa (夫)」と「mia (妻)」は口語であり、「sǎamii (夫)」と「phanrayaa (妻)」は文語である（富田 1990:1159、1401）。
- 10) 「wai rûn」は「ティーンエイジ」という意味でも用いられるし、「ティーンエイジ」という年齢層にある人を示す「ティーンエイジャー」という意味でも用いられる。
- 11) 潮州語は福建語系の閩南語に属し、タイ人の言う中国語とは普通は潮州語のことである（富田 1990:750）。

## 参考文献

岩波書店 (編)

2008『広辞苑』、岩波書店、東京。

富田 竹次郎

1990『タイ日辞典』、養徳社、天理。

三上 直光

2002『タイ語の基礎』、白水社、東京。

宮本 マラシー

2003『タイ語表現法』、大阪外国語大学、大阪。

Anchaleenukoon Sunan

2003 Rabop Kham Phaasaa Thai (タイ語における語の構成), Krongkaan Phoephrae Phonngaan Wichaakaan, Faculty of Arts, Chulalongkorn University, Bangkok, pp.24-32.

Bandhumedha Navavan

1970 Kaan Chai Phasaa Thai (タイ語の使い方), Kaan-Phim Satreesarn, Bangkok.

Bruminhen Sujitra

1966 “Kham Sam Nai Phasaa Thai(Reduplication in Thai)” Master’s Thesis, Chulalongkorn University, Bangkok.

Chuartchinnapa Pornthip and Paksasu Amnat

2016 “English Words in the Formation of Thai Synonymous Compounds and Reduplicated Words” in Wannawithat, Vol.16, Faculty of Liberal Arts, Thammasart University, Bangkok.

Iwasaki Shoichi and Ingkaphirom Preeya

2005 A Reference Grammar of Thai, Cambridge University Press, New York.

Noss, Richard B.

1964 Thai Referenc Grammar, Government Printing Office, Washinton D.C.

Prasithrathsint Amara, Hoonchamlong Yuphaphan and Savetamalya Saranya

2001 Thritsadee Waiyakorn (Grammatical Theories), Chulalongkorn University Printing, Bangkok.